

# 紙おむつリサイクル事業



福岡県大木町

# 大木町もったいない宣言

(ゼロ・ウェイスト宣言)

## ■全国で2番目のもったいない宣言

大木町は、2008年3月11日、町議会の議決を経て、

**「もったいない宣言（ゼロウェイスト宣言）」**を公表しました。

ゼロウェイスト宣言は徳島県上勝町に続き、全国で2番目です。

**子どもたちの未来が危ない。**

地球温暖化による気候変動は、100年後の人類の存在を脅かすほど深刻さを増しています。

その原因が人間の活動や大量に資源を消費する社会にあることは明らかです。

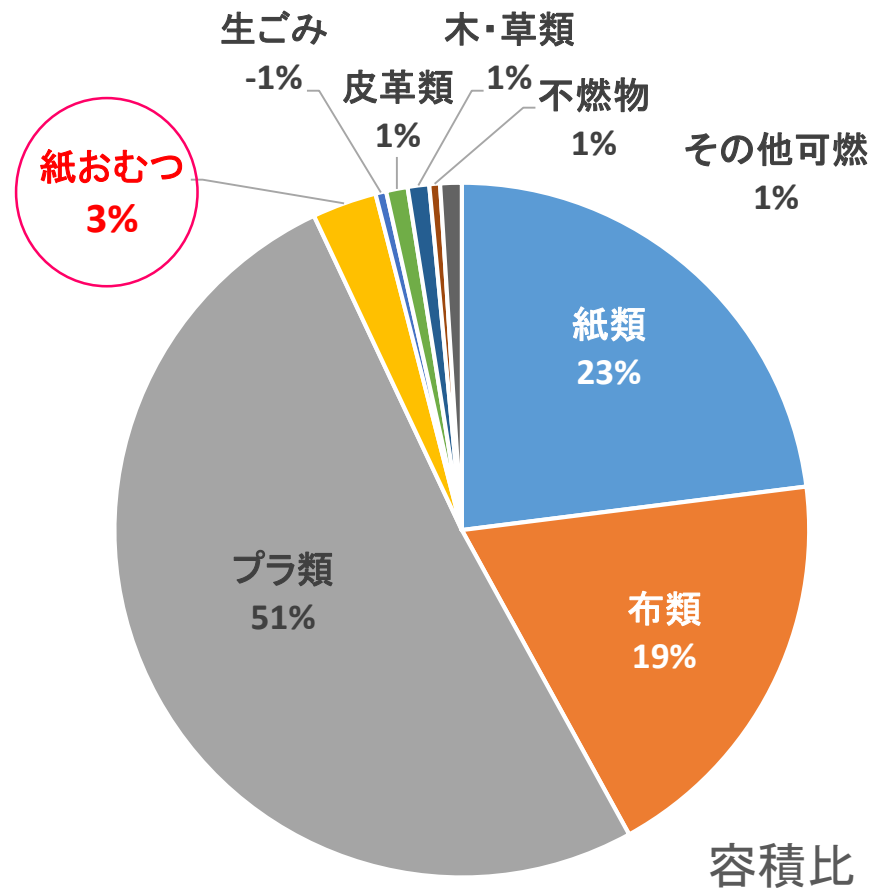
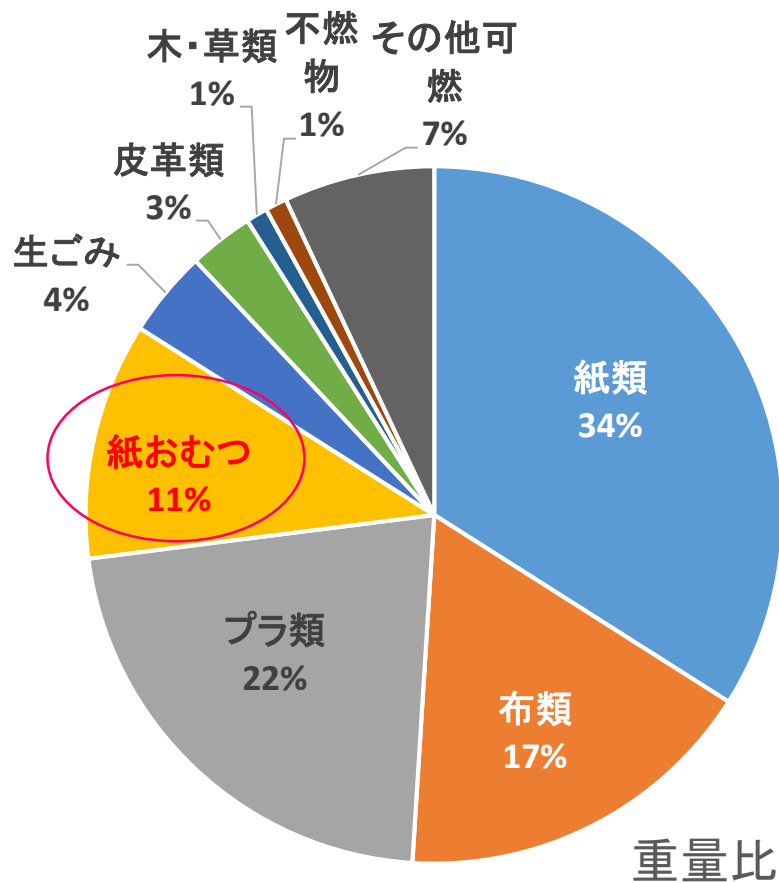
私たちは、無駄の多い暮らしを見直し、これ以上子どもたちに**「つけ」を残さない町を作る**ことを決意し、**「大木町もったいない宣言」**をここに公表します。

- 1、先人の暮らしの知恵に学び、「もったいない」の心を育て、**無駄のない町の暮らしを創造**します。
- 2、もともとは貴重な資源である**「ごみ」の再資源化**を進め、2016年（平成28年）度までに、**「ごみ」の焼却・埋立て処分をしない町**を目指します。
- 3、大木町は、地球上の小さな小さな町ではありますが、地球の一員としての志を持ち、同じ志を持つ世界中の人々と手をつなぎ、**持続可能なまちづくり**を進めます。

以上宣言します

2008年3月11日 大木町議会議決

# 燃やすごみ袋の中身（平成20年度大木町調べ）



水分を多く含む紙おむつは燃えにくいというえに、今後高齢化により紙おむつの排出増加が見込まれるため資源化を検討、平成23年10月から紙おむつ分別収集をスタート

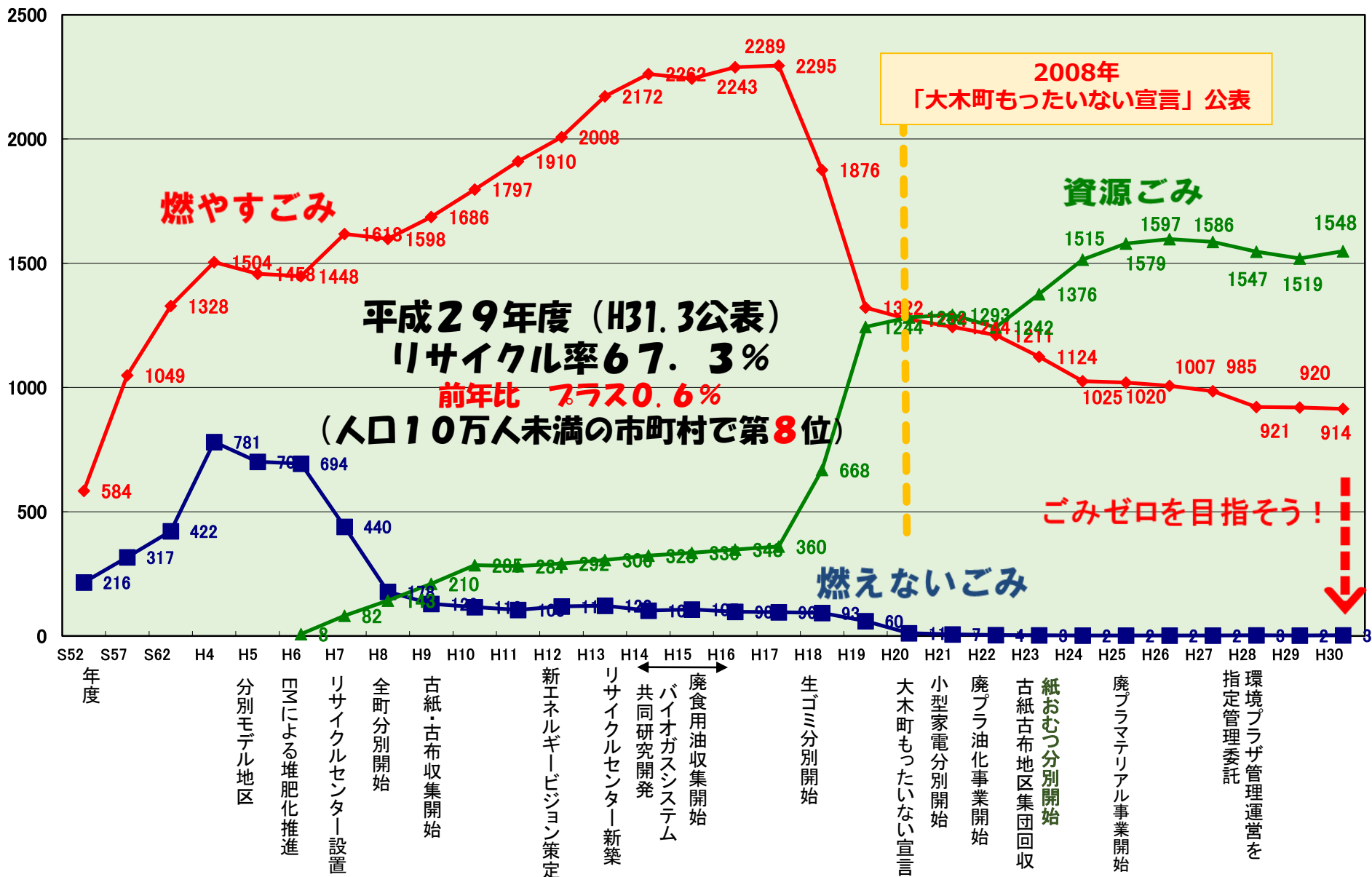
# 紙おむつリサイクル

- 高齢者人口の増加により紙おむつの使用料・排出量は増加し続け、その処理は自治体の負担
- 使用済み紙おむつは水分が多く、燃えにくいとその殆どは焼却処理されている
- 紙おむつには針葉樹から作られた良質のパルプが使用されている



課題解決のため、福岡県リサイクル総合研究センター、福岡県、トータルケア・システム(株)、大木町との共同研究(H20年度～22年度)により、家庭からの紙おむつを回収・再生利用するシステムの構築を図った

# 大木町 家庭ごみ収集量の推移と分別の取組み





## トータルケア・システム株式会社

全国で唯一平成17年から水溶化処理による使用済み紙おむつの「マテリアルリサイクル」を開始

水溶化処理は、従来の焼却と比較してCO2排出量を約40%削減の効果が可能

# 紙おむつの取り扱い

## 一廃 or 産廃

- し尿が付着しているから「一般廃棄物」
- 廃プラが多くを占めるので「産業廃棄物」
- 個人が排出したら「一般廃棄物」
- 施設の入所費用に含まれているから「産業廃棄物」

## 許可の問題

- 一般廃棄物の処理責任は各市町村(処理計画)
- 施設の許可
- 業の許可
- 域外処理は、事前通知が必要

統一的な見解と、リサイクルを推進する法整備が必要

# ごみゼロへの挑戦

## ■ 紙おむつリサイクル事業の概要



紙おむつ、パット、  
お尻ふき(ウェットティッシュ)を  
出すことが可能



指定袋に入れ、口をしっかりと  
結んで出す



回収ボックスに投入  
いつでも持込みOK  
**回収は週2回**



リサイクル施設で  
水溶化分離処理  
再生パルプを作る



再生パルプを外壁材に利用  
環境プラザ研修室の  
外壁材もこのボードを利用



※ 外壁材に利用することができる再生パルプはアスベストの代替品ともなる



## メリット

いつでも出せる

プライバシー保護

景観保全

収集コスト低減

## デメリット

拠点までの運搬

指定袋以外での排出

BOXの初期投資

BOXの管理



# 紙おむつリサイクル BOXによる拠点回収



専用の回収ボックス  
500 L 容器  
事業開始時 (H23)  
64台購入



ボックス表面に企業名  
を入れることで広告宣  
伝費を収入



初期投資費用を回収



# BOXによる拠点回収

「紙おむつ専用」の指定袋  
15リットルサイズ1枚15円  
これ以上、大きいサイズだと重くなり片手で持てない



# 紙おむつリサイクル 収集体制



1週間に2回回収  
1回の回収量約1t  
3.5t ダンプ 1台分

2人体制で収集  
町内59箇所の収集時間  
3時間～3時間半  
大牟田の工場までの運搬約30分



搬出時は飛散防止のためネットをかけて運搬



# 紙おむつリサイクル

## 紙おむつ排出時の注意事項

出しているもの	紙おむつ、パット類 お尻ふき（ウェットティッシュ）
出せないもの	紙ティッシュ、ビニール袋、新聞紙 ゴム手袋、ペット用紙おむつ 感染症の病気と診断された紙おむつ

1. 紙おむつ以外のものは入れないこと
2. 大便是できるだけ取り除き、トイレで処理すること
3. 必ず指定袋に入れ、袋の口をしっかりと結んで「紙おむつボックス」に出すこと

指定袋：高密度ポリエチレン、厚さ0.02mm  
容量15 L（これ以上大きいサイズだと重くなり片手で持てない）



# 紙おむつリサイクル



- ・ 子連れ世帯の多いアパートや乳幼児の検診施設にも回収ボックスを設置
- ・ 回収時に回収袋の個数をカウント傾向を分析し、連休などで紙おむつ量が増加する可能性がある場合は予備のボックスを設置



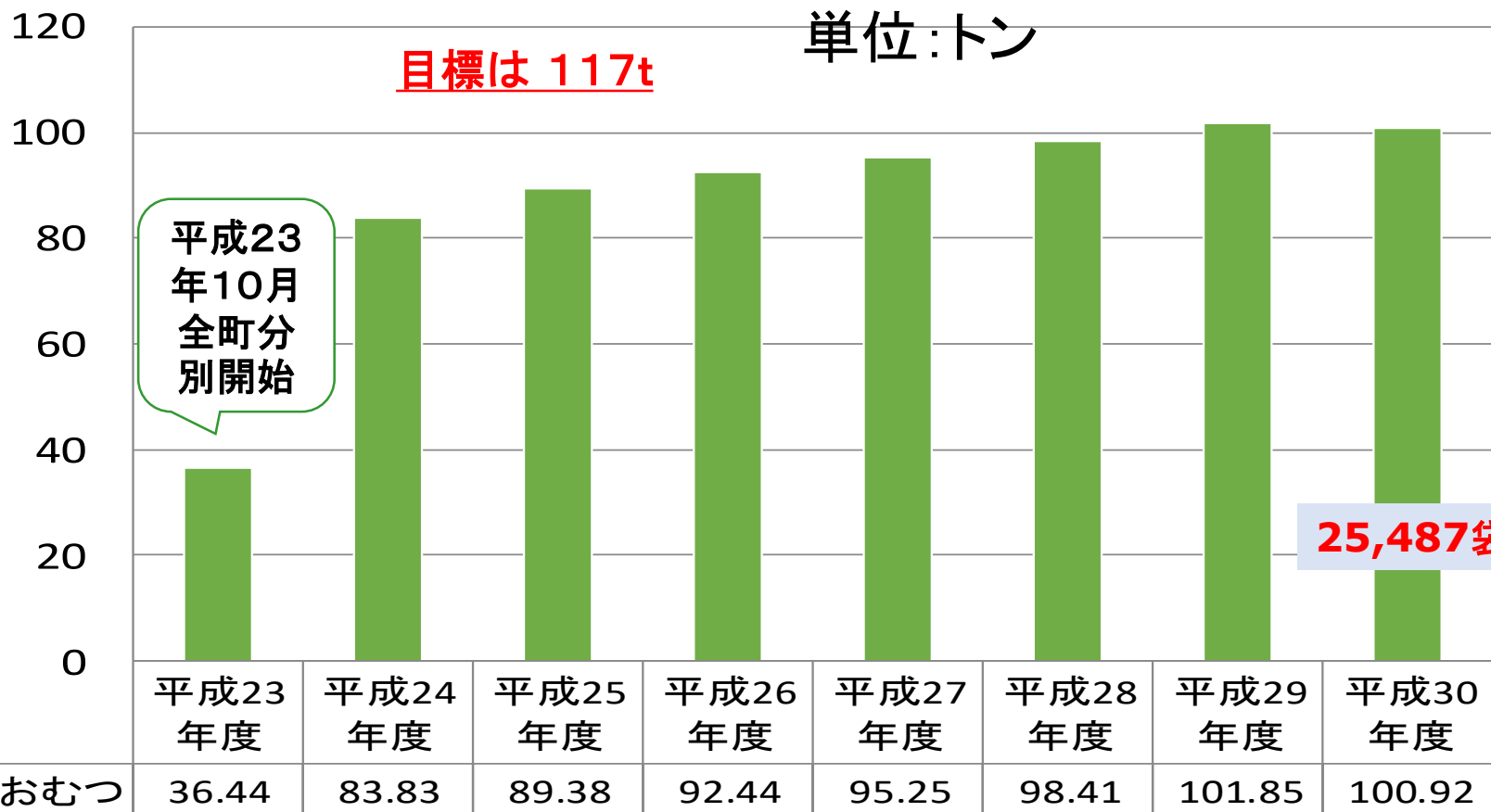
- ・ 出生届け提出時に啓発のため、指定袋の無料配布を実施

- ・ **ルール違反対策**  
指定袋以外は回収しない  
違反シール、啓発チラシ、**回覧板**  
ボックスにカギをかける



# 紙おむつリサイクル

## ■ 紙おむつごみ排出量の推移



指定袋違反	2.7%	20%	6.0%	5.3%	0.4%	2袋	0.1% (34袋)	0.1% (20袋)
-------	------	-----	------	------	------	----	---------------	---------------

# 紙おむつリサイクル 家庭での分別状況事例

## 家庭内において「紙おむつ」は分別しやすいもののひとつ



子どもの頃から、分別体験をさせることで「分別があたり前」となる

